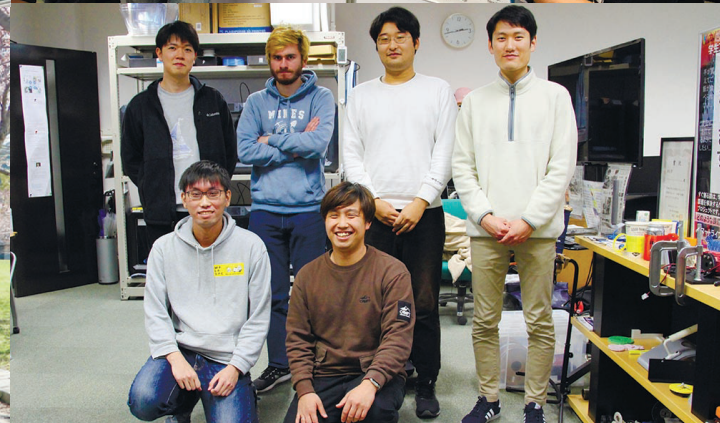
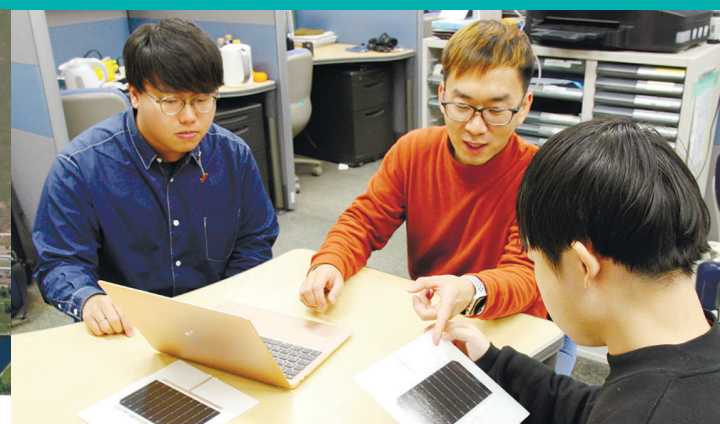
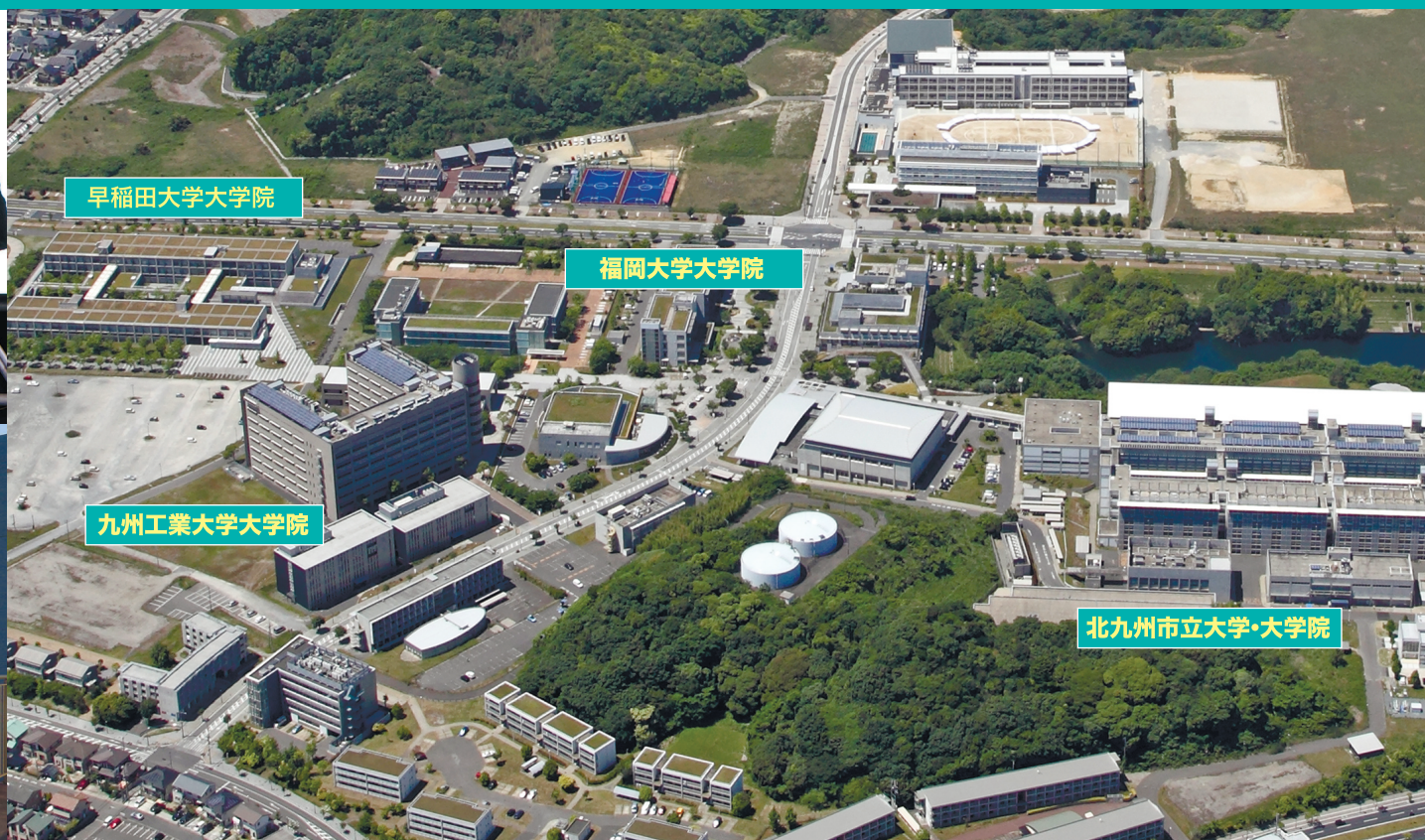




先端科学技術で切り拓く未来、北九州から

アジアに近く、本州と九州の接点に位置する北九州市。交通の要衝で、24時間利用可能な北九州空港、港湾施設、高速道路網など、交通・物流インフラが充実している。一方、政令指定都市でありながら、市域の約4割は森林で、響灘・周防灘にも面し、都市と自然が共存する街だ。ものづくりの街として発展し、OECDよりア

ジア諸国で唯一のSDGsモデル都市に選定されている。国からも「SDGs未来都市」に選定され、「持続可能なビジネスが生まれ、育つまち」を目指している。市内には12の大学・大学院や工業高等専門学校もあり、若い人材が育つ。その中で、理工系の4つの大学・大学院が集まり存在感を放つのが北九州学術研究都市だ。

優秀な学生が集まる学研都市

設立20周年を迎えた北九州学術研究都市。大学・研究施設のほか、住宅や緑地、商業施設など複合的なまちづくりが進められ、垣根のない広大なキャンパスには、北九州市立大学国際環境工学部・大学院国際環境工学研究科、九州工業大学大学院生命工学研究科、早稲田大学大学院情報生産システム研究科、福岡大学大学院工学研究科の1学部4大学院が立地。現在、約3500人の研究者や学生、企業の方々が在籍している。そのうち留学生は約800人で、アジアを中心に約30カ国から優秀な頭脳が集まる。留学生に対しては奨学金や日本語講座、就職支援プログラムなどにより一貫した支援を行い、優秀な理工系人材を輩出する「アジアの学術研究拠点」を形成している。

学生インタビュー

「理系の魅力、女子中高生に伝える」

「幅広い分野からテーマを選べそう」とこの大学を選びました。今は白血球がどのように接着して炎症を抑えるのかを研究中。飛び級制度を利用して1年早く卒業する予定です。研究以外では留学生向けの地域ラジオのパーソナリティを務めたこともあります。また、女子中高生に理系の面白さを伝えるプロジェクトに大学代表として参加。「理系もいいね」と言ってもらえるよう活動しています。



北九州市立大学大学院
瀬戸口 桃香さん

「高齢社会のリーダーめざし起業」

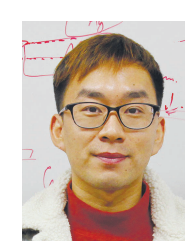


九州工業大学大学院
山崎 駆さん

福祉にロボティクスを導入する研究をしています。実装には長い時間が必要です。そこで2年前に学生プロジェクト「すぐ創る課」を立ち上げました。3Dプリンタを使って助剤に役立つパーツを作ったり、作り方を教えたりしていましたが、企業との連携も増えてきたため学発ベンチャーを起業しました。高齢化率の高い北九州市だからこそ助剤の知見を高め、これからの社会に役立てようと思っています。

「多くの留学生、温かい雰囲気の魅力」

10年前に中国から留学、学研都市内の九州工大で修士を取った後、早稲田大の博士課程に進学しました。太陽光パネルの耐久性を高める研究を行い、関連する日本企業への就職も内定。留学生のために面接の方法などを指導する就職支援プログラムのサポートも受けました。ここには様々な国や宗教の留学生がいて異文化交流も盛ん。大学を越えてお互いの研究を支えあうしくみもあり、温かい雰囲気が魅力です。



早稲田大学大学院
于 昕光さん

最先端の研究が進む環境

北九州学術研究都市では、4つの大学・大学院、研究機関、企業等がカーボンニュートラルやAI、半導体といった分野を中心に高度な人材育成や最先端の研究活動を行っている。

クリーンルームを備え半導体微細加工技術の研究を支援する「共同研究開発センター」やネットワークや半導体設計に関する研究開発・人材育成を共同で行う「情報技術高度化センター」など、大学や企業も利用できる施設も充実し、研究開発を支えている。また、昨年4月にオープンした「北九州市ロボット・DX推進センター」は、生産性向上に取り組む地域の企業ニーズをワンストップで支援している。こうした産学連携施設等の充実が大学だけでなく、研究機関や研究開発型の企業も呼び寄せてきた。集積した知を連携させることで新たなイノベーションがここから生まれていく。



入居企業の成長をサポート

充実したインフラが整う学研都市に入居する企業や研究機関は50社にのぼる。施設利用のメリットや、大学との連携による研究開発も魅力だが、学研都市で育った人材を即戦力として採用した企業もあり、理工系人材の獲得に頭を悩ます企業を呼び寄せる力となっている。

こうした企業と大学・研究機関を結びつけコーディネートするのが北九州産業学術推進機構(FAIS)だ。大学と企業のマッチングや、補助金の活用などにより、企業に伴走した支援を行っている。20年前から産学連携を提唱し次代の価値を創造し続けてきたFAIS。これからも多彩な連携を生み出し、北九州から研究開発の力で未来を切り拓いていく。

入居企業紹介

「北九州拠点にASEAN進出を」

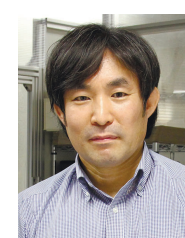
学研都市に進出したのは2004年。本社は富山県です。LSI設計や小型カメラ製造などの事業を行っています。ここでは半導体製造の後工程で使う検査機器の開発を行っています。設備面では産学共同で使える検査機器や通信インフラなども充実しており、大きなメリットを感じています。また地理的にも九州には半導体関連産業が集積しており、顧客との距離を活かした展開が出来るのも魅力です。さらにこの場所からは北九州空港、福岡空港と二つの空港が使えます。ここをゲートウェイとしてASEANでの事業拡大を行おうと考えています。



株式会社シキハITEC
取締役
電子システム事業本部長
古川 卓哉さん

「分離膜の研究、化粧品づくりに応用」

起業以前は海水を常温常圧で淡水化する分離膜の研究を行っていました。研究を続けるうち、この技術がブラセンタの精製に活用できることに気が付き、化粧品の製造販売を行うFILTOMを立ち上げました。オフィスはインキュベーション施設の中にありますが、共同研究を行う大学の先生と巡り合うこともでき、理想の産学連携環境だと思います。また、学研都市で学ぶ留学生がスタッフとして働いてくれているのですが、彼らの優秀さにも驚かされます。この街の雰囲気そのものが企業イメージの向上につながっていると感じています。



FILTOM
CTO
尾池 哲郎さん

広告

次代の価値を創造する「北九州学術研究都市」へ



公益財団法人

フェイス
北九州産業学術推進機構 (FAIS)

産学連携で研究開発に取り組む企業を応援します
詳しくは特設サイトへ

<https://pr.ksrp.or.jp/>

